

群馬大学重粒子線医学研究センター 研修報告書

研修者の氏名	末藤大明
研修者の施設	九州国際重粒子線がん治療センター
研修期間	2013年7月9日 ～ 2013年7月11日
受入れ担当者	中野 隆史 (センター長)
報告記載日	2011年7月14日

今回はご多忙の折、研修を受け入れていただきありがとうございました。

今年度の開設した九州国際重粒子線がん治療センターの治療開始にあたり研修させていただいた。実際、前立腺の治療では患者搬入3分程度、照合5分程度、照射3分程度、患者搬出3分程度と合計15分以内でほぼ対応可能となっており、2011年に研修させていただいた頃より治療時間は2/3-1/2程度へと短縮できていた。治療開始からわずか3年目の状態で、放射線医学総合研究所で年間治療されている前立腺癌の件数にほぼ匹敵する患者数となっており、地域に根付いた状態となっていた。各症例に治療効果のみならず副作用を最小限に抑えるべく細心の治療計画を行われていることに起因していると感じた。他の疾患においても今年から積層原体照射が可能となり、皮膚線量過多となりがちな頭頸部や骨軟部腫瘍でより良好な線量分布が作成されていた。肝臓などでのマーカー挿入に関しては安全性に留意されていた。各臓器担当先生から、予定時間を超える説明をしていただき率直な疑問にもお答えいただいた。以前、私が関与させていただいた患者さんの治療効果を教えていただいた先生もおられ、非常に気を使っていたと感じた。群馬大学では治療プロトコール数も増加しており、今後益々発展していくことが予想された。九州国際重粒子線がん治療センターでも、群馬大学に劣らない良い医療を提供すべく身が引き締まる研修となった。